

# 自律的な外国語学習者を育成するための課外活動の在り方

—2019年度から2021年度までの

English CaféとJapanese Tableを事例に—

古本 裕美<sup>\*</sup>  
奥田 阿子<sup>\*\*</sup>  
宮脇 恵美<sup>\*\*\*</sup>  
徳重 秋利<sup>\*\*\*</sup>

キーワード：課外活動、自律性、動機付け、外国語運用能力、コロナ禍

## 1. 目的

「グローバル人材の育成」という言葉を耳にするようになったのはいつの頃からだろうか。文部科学省のホームページによるとグローバル人材の育成について議論され始めたのは、2011年に行われた文部科学省の「産学協働人材育成円滑会議（第1回）」からである。その際の議事要旨によると、グローバル人材を育成するためには、日本における内なる国際化の推進が必要であること、外国人留学生を積極的に取り入れることなどが記載されている。大学教育についても専門分野とともに、コミュニケーション、リベラルアーツといったベーシックな教養部分が必要と提言されている。翌年2012年に行われた「高等学校教育部会（第4回）」でも社会の要請に応える人材養成機関として、グローバル人材をどのように育成すべきかについて検討されている。

このような背景から、2012年4月に長崎大学の目指す新しい教養教育改革の一環として、本学に言語教育研究センターが設立された。言語教育研究センターは、「英語教育部門」と「初習外国語教育部門」からなり、各部門において教育改革を推進し、授業の改善、教材の開発、学習支援システムや学習評価システムの整備・開発などを行っている。また、留学生教育・支援センターと連携しながら海外語学研修を行い、意欲的に学修する学生を支援する体制を築いている。特に、英語教育の部門においては、高い運用能力を育成するための教育・研究を行い、自律的に学修し自らを高め、変革しながら現代社会で活躍する人材の育成を目指している（言語教育研究センターホームページより一部抜粋）。

一方、留学生教育・支援センターが外国人留学生の受入れと学生の海外

留学の推進を図ることを目的として本学に設立されたのは、2018年7月のことである。当時、長崎大学では、第3期（平成28年4月1日～令和4年3月31日）中期目標・中期計画に沿って、多様な価値観をもった学生が集う「キャンパスの国際化」を積極的に推進しているところであり（塚元，2019；埜田，2020）、具体的には、学生の英語力の向上、留学経験がある日本人学生の割合の増加、留学生数の増加といった国際化に関する目標を掲げていた。これに関連する場として、2022年5月現在、言語教育研究センターと学生支援部留学支援課が共催する「English Café」と、留学生教育・支援センターと学生支援部留学支援課が共催する「Japanese Table」が存在する。両活動には、次の2つの共通点がある。1つ目は、言語を介した国際交流を通し、目標言語での運用能力、コミュニケーション能力、異文化理解能力等を培う場であるという点である。2つ目は、単位が与えられる科目とは異なる課外活動に相当するため、参加者には自律的に学習する態度と動機付けが求められるという点である。

本稿では、with コロナ時代を見据え、コロナ禍前と渦中の English Café と Japanese Table の実施状況や困難点を持ち寄って議論することにより、上述したような態度や動機付けを授業外で育む場の在り方を探ること、そして、議論を通して明らかになった課題の解決策を提案することを目的とする。

## 2. 2019年度から2021年度の English Café と Japanese Table の実践報告

2019年度の学期期間中は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響はなかったが、2020年度の新学期には既にそれが猛威を振るっていた。日本国内では緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、外国人留学生の日本への再入国や新規入国も厳しく制限された。そのため、本学では、教養教育科目や専門教育科目の授業形態だけではなく、課外活動に位置付けられる English Café や Japanese Table もその運営方法を大きく変えざるを得なかった。本章では、English Café と Japanese Table の活動が始まった経緯、運営方法、2019年度から2021年度までの実践状況を報告する。

### 2-1 English Café について

#### 2-1-1 English Café が始まった経緯と運営方法

言語教育研究センターが設立した当初、長崎大学では、授業以外で英語

を話す場は提供されておらず、自律的かつ実践的な運用能力を涵養する場が必要不可欠であると考えられていた。そこで、そのような場の先駆けであった近畿大学の「英語村 E3[e-cube]」等の視察を経て、2013年度から長崎大学でも英語を話す場として English Café が開始されることとなった。

English Café は、Japanese Table と同様に、長崎大学の学生であれば誰でも参加可能である。学部生だけでなく、大学院生や留学生も参加している。学期期間中（前期：4月～7月、後期：10月～1月）に10回、週1回の頻度で実施している。コロナウイルスが流行する前の2019年度は参加人数に制限はなかったが、2020年度からは1回に20名程度に人数を制限し、事前申込を行うことで人数の管理を行なってきた。事前申込は、Google フォームを使用して回答を集め、図1のように英語氏名、メールアドレス、参加希望日、身分（学部生、大学院生、研究生、特別聴講学生／特別研究学生：交換留学生、その他）、母語を記入するようになっている。事前申込の際に定員以上の申込みがあった場合は、抽選を行い、当選した学生のみが参加できる形式となっている。

運営には、言語教育研究センターの英語母語話者の教員2名と日本人の教員1名、学生支援部留学支援課の職員1名が関わっている。英語母語話者の教員は、English Café 当日のファシリテーターとなり、学生同士がスムーズに英語で会話ができるように話題の提供や英語の表現指導を行うなどのサポートをしている。日本人教員は、基本的には運営者として教員のスケジュール管理、イベントの企画などの全体を統括する役割を担っているが、当日に教員数が足りない時は、ファシリテーターとして参加している。留学支援課の職員に関しては、学生への連絡や教室の確保を行なっている。表1～表3は、2019年度から2021年度までの月別参加人数と合計人数である。

表1 2019年度 English Café への参加人数

4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月	合計
38	81	67	39	135	64	71	10	505

表2 2020年度 English Café への参加人数

4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月	合計
不開催	不開催	21	21	不開催	不開催	19	18	79

表 3 2021 年度 English Café への参加人数

4 月	5 月	6 月	7 月	10 月	11 月	12 月	1 月	合計
不開催	35	48	40	22	46	30	5	226

**Name in Alphabet \***  
e.g.) NAGASAKI Hanako

回答を入力

---

**Email address \***

回答を入力

---

**Which day would you like to join the Cafe? \***

May 12, 2022

May 19, 2022

May 26, 2022

---

**Your Status (身分) \***

選択

---

**Your Native Language \***

English

Japanese

Chinese

Korean

Other

図 1 English Café の事前申込フォーム

## 2-1-2 2019年度の English Caféの報告

2019年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もない年であったため、参加人数の制限を設けていなかった。そのため当日まで参加人数が分からず、参加者が多いときは教員3名で対応し、少ない時は教員1名で対応するなど、当日の運営は参加人数によって臨機応変に対応していた。学生にとっては、自分の当日の予定に合わせて参加の有無を決定できることから、参加しやすいことが大きなメリットであったと考えられる。参加した学生は1テーブル10名までのグループに分かれ、各グループに教員1名が配置されて、英会話を行っていた。30分から45分に一度、教員がローテーションすることで、学生の集中力が途切れない工夫をしていた。また、2019年度後期にはイベントを2回開催して、学生同士の交流を図った。10月には、ハロウィンパーティーを行い（写真1～写真4）、普段は English Café への参加に対して消極的な学生にも、参加へのモチベーションを高め、より多くの学生に English Café に参加してもらう機会となっていた。さらに12月には、外部講師を招き、英語で被曝体験講話を行ってもらった（写真5～写真6）。講話後に講師、留学生、日本人学生で平和についてディスカッションを行い、異世代、異文化の意見交換の場となった。留学生にとっては、日本をより知ってもらう機会となり、日本人の学生にとっては、これまで日本語で得た戦争に対する情報や知識を英語に直すことで、より自分の考えを伝えることに意識をしながら英語を話す機会になっていた。



写真1 ハロウィンパーティー



写真2 仮装コンテスト



写真 3 ゲームの様子



写真 4 お菓子を振る舞う様子



写真 5 被爆体験講話



写真 6 ディスカッションの様子

一方、2019年度の反省点としては、当日まで参加人数が不確定であったことから、参加人数によっては、一人一人が話せる時間に限りがあったことが挙げられる。特に、英語力に自信のない学生は、参加人数が多くなるほど、他の学生の発言を理解するまでに時間がかかり、発言回数が減っていた。また、他者と自分の英語力を比較し、自信喪失する学生もみられた。このような学生に対して教員側はサポートする体制が必要であったが、教員数も限られていたため、細やかな支援が行き届かなかった状況もあった。

### 2-1-3 2020年度の English Café の報告

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により春季休暇明けの4月と5月、夏季休暇明けの10月と11月は English Café を休止することになった。人数制限を設けたこともあり、表2にある通り、3年間で一番参加人数の少ない年となった。English Café を再開した6月、7月、12月、1月に関しては、実施方法を対面から Zoom Meeting (以下、Zoom とする)

を使用したオンラインへ変更して行った。実施方法は変更となったが、運用方法については 2019 年と同様に、各グループに教員を 1 名配置し、ブレイクアウトルームを活用して運用をしていた。2020 年度は、事前申込になったことで参加人数も各回 20 名程度までと限られており、参加者一人一人の発言回数も多くなった。また、文教キャンパスでの開催では参加できない学生、すなわち片淵キャンパスや坂本キャンパスに普段いる学生も参加しやすい環境になったことは利点として挙げられる。

しかし、Zoom の操作に対して不慣れな学生や Wi-Fi の環境が整っていない学生には参加しづらくなるデメリットも生じた。また、画面越しでは会話そのものがしづらく、身振り手振りも映らないため、発言そのもののハードルが上がってしまい、スムーズに会話が進まないことがあった。オンラインでは、イベントの開催も難しく、学生同士の交流や英語学習へのモチベーション維持に対する工夫ができなかったことが反省点として挙げられる。また、このような状況から参加予定者数と実際の参加者数に毎回差が生じていた。例えば、20 名の参加予定者数であっても Zoom に入室した学生がわずか 5 名だった回もあった。

#### 2-1-4 2021 年度の English Café の報告

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進んだことにより再び対面で実施することが可能になった。2021 年度もオンラインでの実施を考えていたが、対面で実施してほしいとの要望が学生から多く寄せられたことも対面に踏み切った理由でもある。しかし、対面での実施とはいうものの感染症対策をしながらの実施となった。具体的な対策としては、まず、参加可能な人数を引き続き 20 名程度に制限して事前申込を必須としたことである。そして、飲み物の提供をしなくなったこと、場所をオープンスペースから教室に変更し、2 つの教室に分けて実施したことである。最後に、イベントの中止である。それでも参加人数が 2020 年度に比べて大幅に増えたことから、学生が対面での実施を強く望んでいたことがうかがえる。新型コロナウイルス感染症の影響が続き、人と知り合う機会も少なくなったことから、English Café に友達を作りに来ることを目的としている学生もいたように感じた。イベントの開催もなく、学生のモチベーションの維持が不安視されたが、学生交流の場としての役割を以前よりも強く担うことで、参加者も予想よりも多い結果となった。

一方で、2020 年度と同様に参加予定者数と参加者数に差異があった。

2020年度ほど大きな差はないものの、毎回3分の1程度の学生が欠席と  
なってしまった。English Caféは、課外活動のため、参加への強制力はな  
い。そのため、開始直前まで実際の参加者数が把握できず、学生の補充も  
困難であった。欠席連絡を必須とし、抽選で外れた学生の参加を促すなど  
の工夫が必要であったと考える。

## 2-2 Japanese Tableについて

### 2-2-1 Japanese Tableが始まった経緯と運営方法

Japanese Tableは、長崎大学において2019年4月に始まった国際交流活  
動の1つである。この活動の主な目的は、留学生と日本人学生が日本語を  
通じて交流する機会を提供することである。

Japanese Tableが開催されることになったきっかけは、2018年に本学研  
究国際部国際企画課が長崎大学に留学経験がある学生を対象に行った「留  
学に関するアンケート調査」の結果にある。「長崎大学に留学してあまり  
良くなかったと感じた点」として、「日本人学生との交流の機会の提供」  
を選択した留学生が全体の21.3%を占めた。交換留学生と称される特別聴  
講学生及び特別研究学生のみを対象とした結果では、この「日本人学生と  
の交流の機会の提供」の少なさが最も多い指摘であった。この結果を受け  
て、当時の副学長（学生担当）から留学支援課に留学生と日本人学生がお  
昼ごはんを食べながら気軽に交流できる機会を作ることについて打診が  
あり、それを受けた留学支援課の職員2名によって「Japanese Café（日本  
語 de お昼ごはん）」が2019年4月から実施されることになった（図2）。

2020年2月に新型コロナウイルス感染症が流行するまでは、「Japanese  
Café」という名称で、本学文教キャンパスの学生交流プラザにて対面形式  
で実施し、参加者にはコーヒーを提供していた。しかし、飲食を伴って対  
面で交流することができなくなったことから、2020年4月に名称を  
「Japanese Table」へと変更した。開催方式もZoomを用いたオンライン開  
催へと変更せざるを得なかった。2022年5月現在は、English Caféと同様  
に、長崎大学の学生であれば誰でもJapanese Tableに参加することができ  
るが、開催方式がZoomへと変更になった直後は、長崎大学を卒業したり  
交換留学の期間が終わったりして帰国した元留学生や、これから長崎大学  
に留学する予定の協定校の学生もそれぞれの居住国・地域から本活動に参  
加していた。





図 2 2019 年度前期の Japanese Café のポスター

2022 年 5 月現在の Japanese Table の運営には、学生支援部留学支援課の職員 2 名と留学生教育・支援センターの教員 1 名が関わっている。3 名とも日本語母語話者である。留学支援課の職員 2 名は英語と中国語が堪能であり、Japanese Table に興味がある学生や参加する学生への連絡、広報活動、会場の予約、Japanese Table で使用する機材の準備・設営、Japanese Table 当日の受付などを行っている。教員 1 名は日本語教師であり、参加申込フォームの作成と Japanese Table 当日の全体的なファシリテーター役を担っている。参加者数が少ない時にはこの教職員 3 名が会話のグループに加わることもある。以下に Japanese Table の活動状況を年度ごとに述べていく。

#### 2-2-2 2019 年度の Japanese Café（後の Japanese Table）の報告

先述したように、Japanese Table は 2019 年 4 月に始まった。表 4 に 2019 年度の開催方式、開催回数、参加者数を示す。2019 年 4 月から 7 月までは、第 2・第 4 火曜日の 12 時から 13 時の時間に学生交流プラザで Japanese Café を開催した。学生交流プラザは学生たちが自由に過ごせる 1 階建ての建物で、テーブル、椅子、ソファなどが設置されている。コロナ禍前までは、そこでご飯を食べたり、おしゃべりしたり、勉強したりなど、学生たちが自由にそのスペースを使用することができた。Japanese Café に関する情報の学生への周知は学務情報システムへの掲示で行い、留学生にはさらに e-mail でも行った。加えて、先述したポスター（図 2）を学内に掲示した。2019 年度は本活動への参加予約は不要で、人数制限も行わなかった。当日、お昼ごはんを持参した学生たちがテーブルを囲んで座り、ごは

んを食べながら自由に日本語で話すという形式であった。しかし、残念ながら、回数を重ねるごとに参加者数が減少してしまった。その一因は、昼休憩という限られた時間の中で、ごはんを食べながら初対面の人と話すことの難しさにあると考えられた。

表 4 2019 年度 Japanese Café の開催方式、開催回数、参加者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	10 月	11 月	12 月	1 月
開催方式	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ	対面	対面	対面	対面
開催回数	1 回	2 回	2 回	1 回	2 回	2 回	1 回	2 回
留学生数	10	16	6	0	62	34	7	16
日本人学生数	23	9	7	0	22	15	10	8



図 3 2019 年度後期の Japanese Café のポスター

そこで、2019 年 10 月からは、留学生の日本語の授業がない第 2・第 4 金曜日の 14 時 30 分から 15 時 30 分という時間帯で、コーヒーを飲みながらおしゃべりをする活動へと変更した（図 3、写真 7）。3 名から 6 名が 1 つのテーブルを囲んで座り、基本的に自由なトピックで日本語で話してもらった。時には、『ベストフレンド S』や『私の世界の見方』といった市販のボードゲームを材料に話してもらうこともあった。約 20 分経過したら、新しいグループでさらに話を続けてもらった。しかし、2019 年度前期と同様に、後期も開催回数を重ねるごとに参加者数が徐々に減少し、参加者数が最も多かったのは学期初めの 10 月であった。そのような中、2019 年 10 月から 2020 年 1 月までに開催した計 7 回の全てに参加した留学生 2 名と

日本人学生 1 名には、留学生教育・支援センター長から皆勤賞が授与された。2020 年 3 月には、English Café との共同開催でお花見を計画していたが、新型コロナウイルス感染症が拡大したため中止した。



写真 7 2019 年度後期の Japanese Café の様子

### 2-2-3 2020 年度の Japanese Table の報告

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2019 年度末には、長崎大学におけるほぼ全ての授業が対面形式からオンライン形式へと変更になることが決定した。また、サークルや部活、ボランティア活動といった課外活動も禁止され、Japanese Table で使用していた学生交流プラザも使用できなくなってしまった。さらに、例年、新規留学生は 3 月末には長崎に到着するのであるが、2020 年 2 月以降、日本における新型コロナウイルス感染症に対する水際対策が徐々に強化されたため、2020 年度前期の新規留学生の日本入国は不可能となった。そこで、English Café と同様に、Japanese Table も 2020 年度前期は対面では実施せず、Zoom を使用したオンラインで行うことにした。2020 年度の開催方式、開催回数、申込者数、そして参加者数を表 5 に示す。

表 5 2020 年度 Japanese Table の開催方式、開催回数、申込者数、参加者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	10 月	11 月	12 月	1 月
開催方式	—	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom
開催回数	0 回	1 回	2 回	2 回	2 回	2 回	1 回	2 回
申込者数	—	89	142	64	84	42	15	40
参加者数	—	71	117	54	32	32	12	26

Japanese Table で利用する Zoom のリンクやパスワード等を連絡するために、参加希望者に事前登録をしてもらったところ、2020 年度初回の 5 月 26 日には 89 名の申込みがあった。新学期の時期であったことや、大学全体がオンライン授業に切り替わった直後であったこと、5 月に緊急事態宣言が長崎県にも発令され外出が制限されたことなどが重なり、この活動を通して他者と知り合いたいという学生が多く申し込み、参加した可能性が考えられる。5 月 26 日の Japanese Table に参加した 71 名の学生を対象に感想を尋ねるアンケート調査を行った。その結果を表 6 と図 4～図 6 に示す。

表 6 初めて Zoom で開催した Japanese Table (2020 年 5 月 26 日) への参加者

	合計	身分・学年		母語	
留学生	24 名	大学院生	9 名	中国語	7 名
		学部生	7 名	英語	3 名
		研究生	4 名	カザフ語	3 名
		特別聴講学生	4 名	韓国語	3 名
				スペイン語	2 名
				フランス語	2 名
				ロシア語	2 名
				ベンガル語	1 名
			ポルトガル語	1 名	
日本人学生	47 名	大学院生	3 名	日本語	47 名
		学部生	44 名		

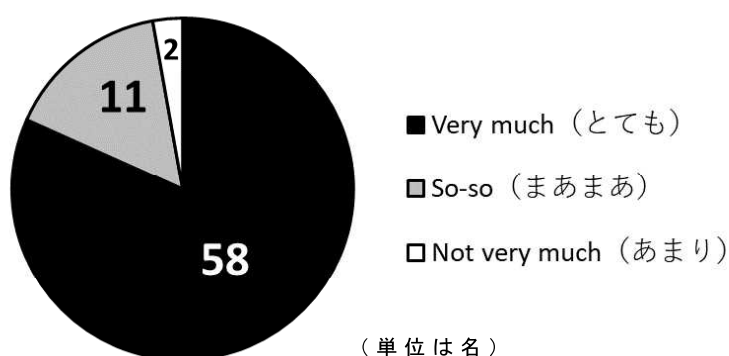


図 4 「I enjoyed today's Japanese Table. (楽しかった)」に対する回答結果

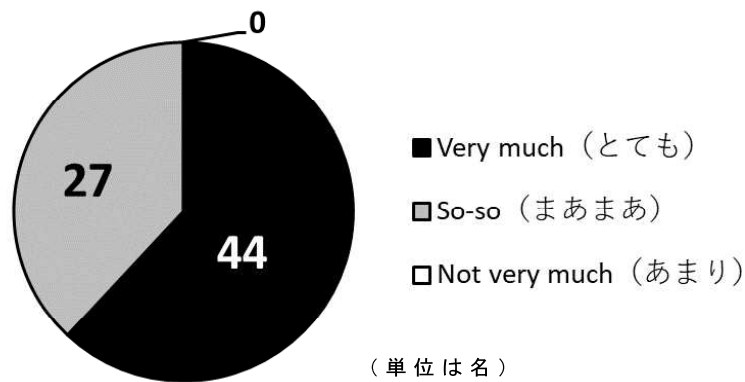


図5 「I spoke a lot. (たくさん話した)」に対する回答結果

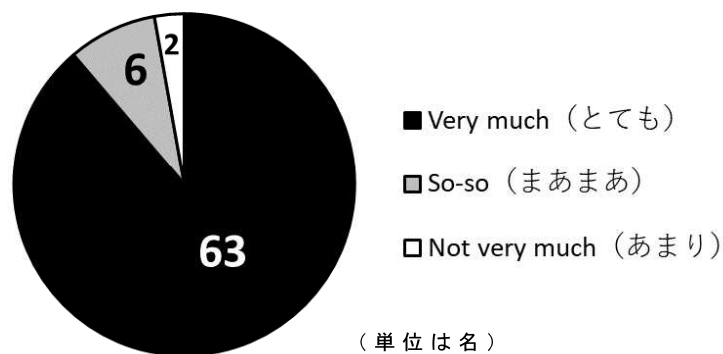


図6 「I'd like to join this again. (また参加したい)」に対する回答結果

表7 「If you have any requests, questions etc., please write here. (リクエストや質問があったら、書いてください)」に対する自由記述回答の結果

- 
- ・時間が短いですねー。
  - ・会話時間はちょっと短かったです。
  - ・あまり会話弾まなかった。
  - ・連絡先などを交換する機会を設けてほしい。
  - ・もっと距離が縮まることがしたいです。
  - ・簡単なゲームがしたい。
  - ・フリートークの難しさを実感した。
  - ・もっとトピックスを予め用意していただければいいと思います。
  - ・話題が尽きるので、事前に個人プロフィールの記入をしてもらい、共有してもらえると話を広げやすいと思います。
  - ・もっとたくさんの人とお話したかったです。
  - ・4人で話すのが一番いいです。
-

- 
- ・4名程度が適当だと思いますが、日本人学生と留学生の割合が1:1でなければなりません。
  - ・今回は、1つのグループで30分程度話したのですが、もっと多くの留学生と会話したいので、1つのグループを15分などに短くしてほしいです。
  - ・英語での会話を希望する人でも話してみたい。
  - ・とっても楽しかったです！
  - ・今回の活動とても楽しかったです。ありがとうございます。
  - ・企画してくださりありがとうございました。最初は互いに探り探りでしたが、楽しかったです。Zoomだけで終わらない繋がりになったら嬉しいです。
  - ・コロナが落ち着けばこのメンバーで会いたいです。
- 

(回答ママ)

Zoomで行うJapanese Tableにおいて運営側の教職員3名が工夫した点は、参加者である留学生と日本人学生の人数が偏らないようにブレイクアウトルームに振り分けることである。そうすることで、対面でJapanese Tableを行っていた時と同じようにグループ分けを行おうとした。また、2020年度前期の頃は、Zoomの参加者自身が自由に他のブレイクアウトルームに移動できるという機能がまだ備わっていなかったため、参加者に共同ホストという権限を付与することでブレイクアウトルームを移動できるようにしたことも工夫点の一つである。また、表7のJapanese Tableに対するリクエストを受けて、自由に話す時に使えるトピックを留学生の日本語レベルに合わせてGoogleスプレッドシートに作成し、準備した。参加者には、そのGoogleスプレッドシートのリンクを、Japanese TableのFAQが見られるウェブサイトや、Japanese Table当日のZoomのチャットボックスを使って伝えた。

2020年度の反省点として、全員がZoomの操作に不慣れであったため、参加者同士が話すこと以外に時間がかかってしまったことが挙げられる。具体的には、運営側の教職員と参加者である学生の双方がZoom内のボタンの位置が分からなかったり、カメラやマイクをオン・オフにする操作に慣れていなかったり、Zoomで使用するデバイスのOSによって使用できる機能が異なったりしたため、ブレイクアウトルームという機能をスムーズに使いこなすことが難しかった。さらに、多数の参加者を共同ホストに設定する作業や、教職員3名が参加者をスクリーンネームから留学生か日本人学生かを判断し、彼らが偏ることなく手動でブレイクアウトルームに分ける作業、そしてブレイクアウトルームの再作成に大変時間がかかってしまった。このような不手際が重なったことが、2020年度前期に学期末が

近づくにつれて申込者数と参加者数が徐々に減少してしまった原因の一つとして考えられる。

2020 年度後期の長崎大学では、徐々に対面で授業が行えるようになった。そして、教室での対面授業と Zoom でのオンライン授業を同時に行う HyFlex 型の授業も増えていった。しかし、日本における新型コロナウイルス感染症に対する水際対策が緩和されることはなく、長崎大学は 2020 年度後期の学生交流協定に基づく特別聴講学生及び特別研究学生の募集・受入れを中止した。また、一時帰国したために日本に再入国できない留学生や、本学への入学許可が下りているのに日本に新規入国できない正規留学生や研究生もいたため、2020 年度後期の Japanese Table も Zoom での開催を継続することにした。ただし、この頃には、Zoom に、共同ホストの権限を参加者に付与しなくてもホストがブレイクアウトルームを作成した時にオプション設定することで参加者が自由にブレイクアウトルームを選択・移動することができるという機能が備わったため、それを Japanese Table でも活用することにした。

2020 年度は、前期の 2020 年 5 月から 7 月までに開催した計 5 回の全てに参加した留学生 1 名と日本人学生 2 名、後期の 2020 年 10 月から 2021 年 1 月までに開催した計 7 回の全てに参加した留学生 1 名に、留学生教育・支援センター長から皆勤賞が授与された。しかし、学期末が近づくにつれて Japanese Table への申込者数と参加者数が少なくなるという現象は、対面で行った 2019 年度と同様であった。

#### 2-2-4 2021 年度の Japanese Table の報告

2020 年 10 月からその年末頃まで、日本での在留資格をもつ外国人の再入国や新規入国の制限が一部緩和されたため、長崎大学では 2021 年度前期の特別聴講学生と特別研究学生の募集・受入れを再開した。しかし、その水際対策の措置は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によって度々見直しが行われ、新規留学生を迎えるはずの 2021 年 3 月頃には再び日本に新しく入国できる者はいなかった。そのため、2021 年度前期の留学生を対象とした日本語関連科目は、そのほとんどがオンラインで行われることになった。一方、長崎大学全体では、2021 年度は 2020 年度よりも対面授業の割合が増加した。このような状況から、Japanese Table は、2021 年 6 月から 11 月までは対面と Zoom を同時に行う HyFlex 型で実施することにした（写真 8）。ただし、対面で行うための教室に入れる人数に制限があっ

たため、2020年度までとは異なり、Japanese Table への参加者数に制限を設けた。2021年度の開催方式、開催回数、申込者数、そして参加者数を表8に示す。



写真8 2021年度前期の Japanese Table の様子

表8 2021年度 Japanese Table の開催方式、開催回数、申込者数、参加者数

	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月
開催方式	—	Zoom	Zoom	HyFlex	HyFlex	HyFlex	対面	Zoom
開催回数	0回	2回	2回	1回	1回	2回	1回	1回
申込者数	—	55	36	12	30	38	30	19
参加者数	—	42	26	12	8	23	18	14

2021年11月に新規入国制限が一時的に緩和されたため、在留資格認定証明書の作成日が早かった留学生の一部が日本に入国することができた。そこで、2021年12月に、留学生と日本人学生が一緒にしめ飾りを作るというイベントを対面で開催することができた。そのイベントには留学生11名と日本人学生7名が参加し、日本の年末年始の行事を体験した(写真9)。

しかし、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株「オミクロン株」に対する水際措置として2021年11月末には外国人の新規入国が再び停止され、2022年1月以降の長崎大学の授業も全てオンライン形式へと変更になったことから、Japanese Table も Zoom のみでの開催へと変更せざるを得なくなった。2021年度は、前期の2021年5月から7月までに開催した計5回の全てに参加した留学生2名に、留学生教育・支援センター長から



皆勤賞が授与された。残念ながら、2021年度後期には全ての回に参加した学生はいなかった。

2020年度と2021年度の申込者数と参加者数を概観すると、10月の参加者数は申込者数の3割程度であることが分かる。Japanese Tableは2020年度と2021年度の4月に行わなかったため想像の域を出ないが、学期初めは自分自身の授業の予定が確定するまでの間にJapanese Tableへの参加を申し込む学生が多いのではないかと推測される。2021年10月以外は、申込者の6割から8割程度がJapanese Tableに参加していた。



写真9 2021年度後期のJapanese Table「しめ飾り作り体験」の様子

### 3. まとめと考察

まず、図7に2019年度から2021年度までのEnglish CaféとJapanese Tableへの参加者数をまとめて示す。

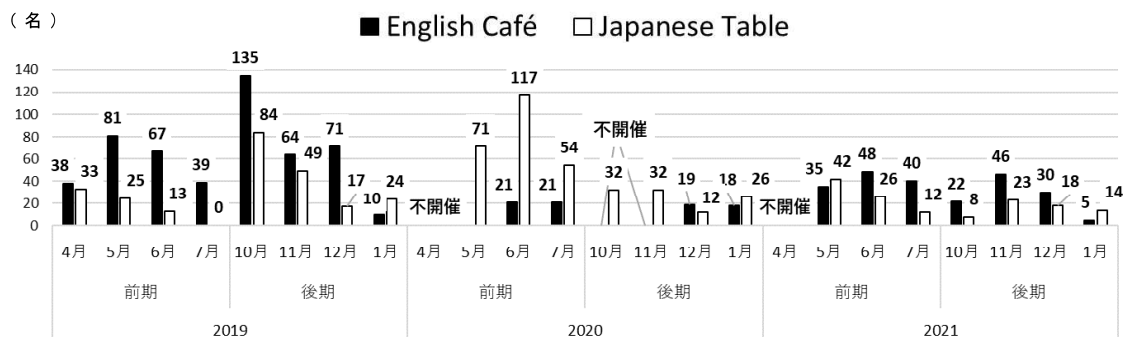


図7 2019年度から2021年度までのEnglish CaféとJapanese Tableへの参加者数

両活動に共通する課題は、申込者数と実際の参加者数との間に差があることである。先述したように、課外活動であるが故に両活動に参加することに対して強制力はない。そのため、急用ができたり、体調不良になったりしない限り、彼らを参加へと導くためには、申込時から開催日の当日、開始時間の直前まで、「必ず参加したい」、「その場に行かなければならない」、「英語や日本語を実際に使って上手になりたい」、「友達を作りたい」というような強い意志を持ち続けさせる必要がある。

そのための工夫として、まず、両活動に興味を抱かせるために、English Café と Japanese Table の取り組みとその成果を画像や動画を使って分かりやすく学生に発信することが必要であると考えられる。また、外国語能力に自信がない学生や、外国語能力の向上よりも言語を通して他者と知り合うことに興味がある学生も参加できるように、アクティビティを固定せず、ハロウィンパーティー、被爆体験講話、しめ飾り作りのようなイベントを月に 1 回程度開催することも参加者層を広げるのに効果的であると考えられる。すると、そこでの出会いが継続的な参加へと繋がる可能性がある。このようなイベントを English Café と Japanese Table が合同で開催するのも多様な価値観をもつ人と出会える可能性が生じるという点で良いであろう。

国内外の移動と他者との出会いが制限されたこのコロナ禍において、本学の English Café と Japanese Table が担った役割は、学生自身が求めているものと、各活動を始めた我々が当初抱いていたものとは異なる可能性も考えられる。それは、2020 年度前期の Japanese Table に多くの学生が参加を申し込んだことや、2021 年度前期の English Café に対面での実施が多く望まれたことなどから推測される。本稿では、2019 年度から 2021 年度に長崎大学で実施された English Café と Japanese Table における課題を主に申込者数と参加者数の観点から探索した。今後は、両活動に参加した学生の動機付けとその後の変容を直接調査し、分析することにより、学生のニーズにより合った活動を継続させていきたいと考えている。また、その調査を今後数年間続けることで、with コロナ時代に本学の English Café と Japanese Table が果たせる役割とその可能性を探ることも今後の課題としたい。

## 参考文献

夔田彰秀（2020）「巻頭言」『長崎大学留学生教育・支援センター紀要』第

2号, pp.1-2.

塚元和弘 (2019) 「巻頭言」『長崎大学留学生教育・支援センター紀要』第1号, pp.1-2.

長崎大学言語教育研究センター「センターの概要」

< <https://cls-nagasaki.jp/center-overview/> > (2022年5月6日)

文部科学省「高等学校教育部会(第4回)配付資料—資料1本日の論点—」

< [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/attach/1316068.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/attach/1316068.htm) > (2022年5月6日)

文部科学省「産学協働人材育成円滑会議(第1回)議事要旨」

< [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/46/gijiroku/1312339.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/46/gijiroku/1312339.htm) > (2022年5月6日)

(\*留学生教育・支援センター 准教授)

(\*\*言語教育研究センター 助教)

(\*\*\*学生支援部留学支援課 職員)